

日本歴史言語学会2022年大会（12月10日於・学習院大学）公開シンポジウム
「日中英独仏・対照言語史—語彙の近代化をめぐる」

中国語の語彙近代化と言語生態

—新語の群生と「適者生存」のメカニズム—

神奈川大学 彭国躍

1. はじめに
2. 生態言語学の視点
3. 近代中国語の新語の生態環境
 - (1) 言語外的環境因子
 - (2) 言語内的環境因子
 - (3) 生態環境の因子群一覧
4. 熾烈な生存競争の一側面
5. 結び

1. はじめに

19世紀末頃、西欧諸国と明治日本の近代化の影響

中国の近代化模索始動：

社会、経済、産業、教育、言語、……

新語の群生現象：

①英語の音訳外来語

②日本語の新漢語

③ピジン英語

④ピジン中国語

2. 生態言語学の視点

言語：人間と環境の相互作用によって創出された記号システム

言語の進化 ⇒ 人間の生存環境に**依存**

言語の生態 ⇒ 人間の生存環境を**創出**

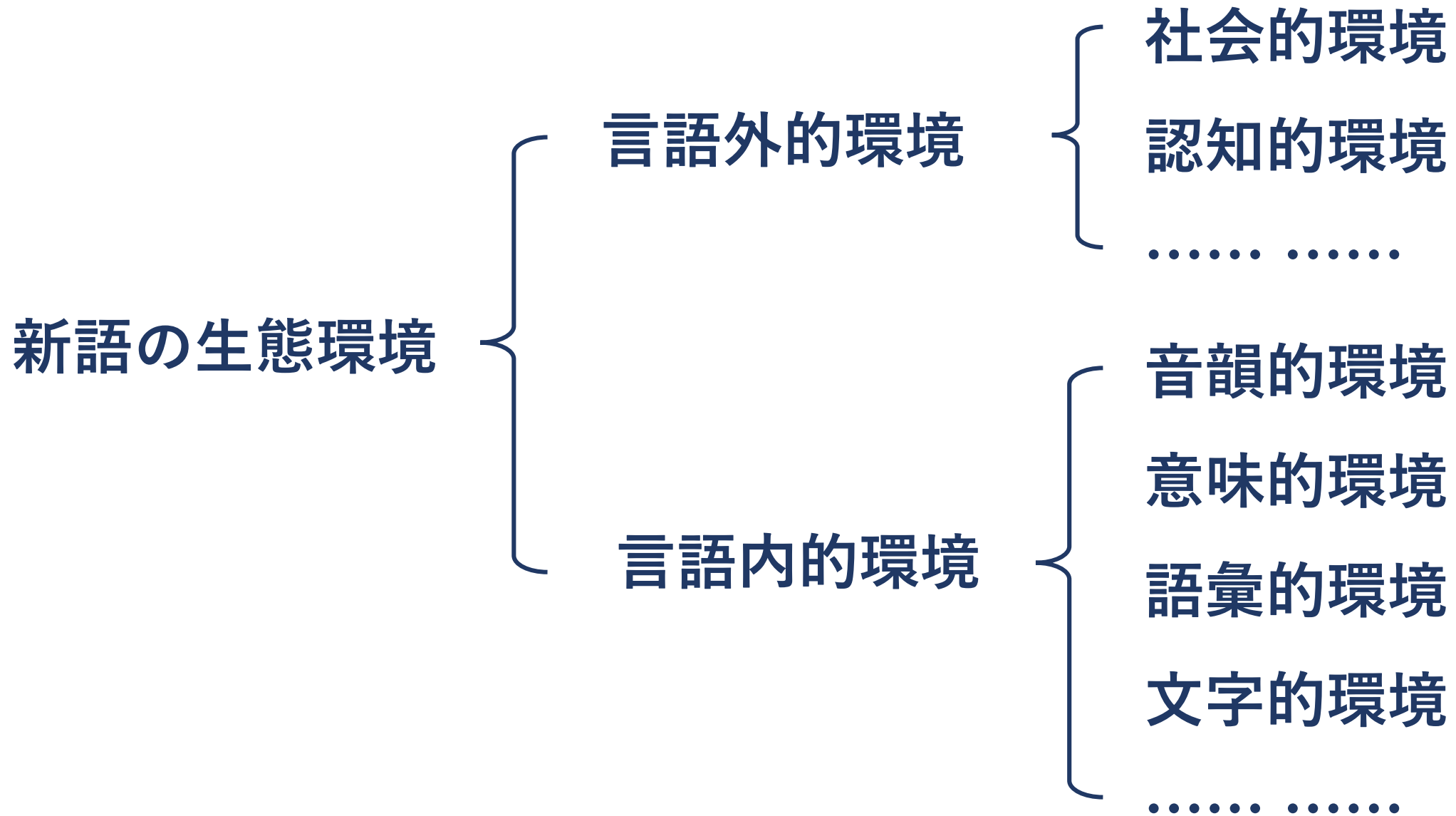
言語の分析には「**生態・環境**」の視点は欠かせない。

3. 近代中国語の新語の生態環境

外来語・借用語・造語を含む新語の発生 = 語彙現象

語彙論レベルでは説明しきれない多くの要素が複雑に絡んでいる。

近代中国語新語の発生、淘汰と生存のメカニズムの解明には
多様な**環境要因**の分析を含むより**包括的な枠組み**の導入が不可欠



多様な環境因子が新語の生存に与えた影響を探る。

(1) 言語外的環境因子

【事例1】宗教（キリスト教布教活動）因子

17～18世紀 カトリック（イエズス会）

18～19世紀 プロテスタント

布教活動の一環 { 辞書の編纂（英華・華英）
洋書の翻訳（自然・社会科学）

宣教師の翻訳書（数学、物理、天文、地理、医学、法律など）

『幾何原本』 マテオ・リッチと徐光啓の共訳（1607）

『全體新論』 ホブソン著（1851）

『重學』 エドキンスと李善蘭の共訳（1853）

『光論』 エドキンスと張福儔の共訳（1853）

『植物學』 エドキンスと李善蘭の共訳（1859）

『代數學』 ワイリーと李善蘭との共訳（1859）

『萬國公法』 ウィリアム・マーティン訳（中国人協力者複数）（1864）

.....

宣教活動 = 近代中国の語彙拡充の言語外的環境因子

【事例2】コンプレックス因子（文化的優越感と劣等感）

20世紀初頭、明治日本の書物の大量翻訳、和製漢語の大量借用

初期外来語

日本語からの借用語

音訳

賽因斯 (science)

⇒

科學

斐洛蘇非 (philosophy)

⇒

哲學

裴輯 (physics)

⇒

物理學

意訳

計學 (economics)

⇒

經濟學

心學 (psychology)

⇒

心理學

群學 (sociology)

⇒

社會學

意訳

排斥派：（張之洞、章炳麟、嚴復、林紓など）

（優越感）

伝統からの逸脱、ことばの乱れの原因 ⇒ **借用語の過剰流通制限**

擁護派：（黄遵憲、梁啓超、譚嗣同、徐仁鏄など）

（劣等感）

新国民の養成、新思想の伝播 ⇒ **借用語の積極的導入と普及**

コンプレックスによる**文化フィルター**の形成

(2) 言語內的環境因子

【事例3】音韻と意味の環境因子

logicの中国語翻訳



邏輯



論理



倫理



同音衝突

北京語：子音同、母音同、声調異

上海・福建・廣東三大方言：子音同、母音同、声調同

新語の淘汰・生存は**言語内の生態環境**から影響を受ける。

【事例4】文字の環境因子

表音文字： アルファベット（音素文字）、仮名（音節文字）

表意文字： 漢字（書記素「形声符」による表音機能あり）

漢字による音訳外来語導入のデメリット：

- ① 字義的意味が新語の理解に**干渉**する
- ② 干渉回避のために字義的**意味のキャンセル**が必要
- ③ 新語理解のための**認知コスト**がかかる

文字の環境因子による新語導入の傾向

音訳外来語 ⇒ 意訳外来語

1900年代 賽因斯 (science) ⇒ 科學

2000年代 沙士 (SARS) ⇒ 非典 (非典型肺炎)

漢字という表意文字のフィルターが強力に作用した。

(3) 生態環境の因子群一覧

表1 新語の生態環境と因子群の例示

環境		因子群
言語外的環境	社会的環境	宗教（布教活動）、西洋化、近代化、移・植民、外交、戦争、文化圏、都市化、人口、民族、政治、経済、政策、教育、留学、翻訳、出版、メディア……
	認知的環境	コンプレックス（文化的優越感・劣等感）、言語威信、言語態度、世界観、価値観、イデオロギー、ステレオタイプ、ナショナリズム、アイデンティティ、認知処理コスト……
言語内的環境	音韻的環境	音素、子音・母音、声調、清音・濁音、有気音・無気音……
	意味的環境	意味素、概念、類義性、対義性、メタファー……
	語彙的環境	語彙素、形態素、語構成、修飾関係……
	文字的環境	文字形態、書記素、表意性、表音性、異体字……

4. 熾烈な生存競争の一側面

表2 20世紀初頭の日本語の翻訳例

『法令全書』（明治 29・1896 年）日本語原文	『新譯日本法規大全』（1907 年）中国語訳文
<p>(民法)</p> <p>第七十八條 <u>清算人ノ職務</u>左ノ如シ</p> <p>一 <u>現務ノ結了</u></p> <p>二 <u>債權ノ取立</u>及ビ<u>債務ノ辨濟</u></p> <p>三 <u>殘餘財産ノ引渡</u></p>	<p>(民法)</p> <p>第七十八條 <u>清算人之職務</u>如下</p> <p>一 <u>現務之完結</u>。</p> <p>二 <u>債權之取立</u>，及<u>債務之辨濟</u>。</p> <p>三 <u>殘餘財産之引渡</u>。</p>
<p>第一百五十條 <u>支拂命令ハ權利拘束カ其効力ヲ失フト</u> <u>キハ時効中斷ノ効力ヲ生セス</u></p>	<p>第一百五十條 <u>支拂命令</u> 若<u>權利拘束</u> 失其<u>効力</u> 則不生<u>時効中斷之効力</u>。</p>
<p>第一百五十一條 <u>和解ノ爲メニスル呼出ハ相手方カ出</u> <u>頭セス又ハ和解ノ調ハサルトキハ一个月内ニ訴ヲ提起</u> <u>スルニ非サレハ時効中斷ノ効力ヲ生セス任意出頭ノ場</u> <u>合ニ於テ和解ノ調ハサルトキ亦同シ</u></p>	<p>第一百五十一條 凡因<u>和解之呼出</u>，若<u>相手方</u>不 出，或<u>和解不成立時</u>，非一个月内<u>提起其訴</u>，則 不生<u>時効中斷之効力</u>。若<u>任意出頭而和解不成之</u> <u>時亦同</u>。</p>
<p>第一百五十四條 <u>差押、假差押及ヒ假處分ハ權利者ノ請</u> <u>求ニ因リ又ハ法律ノ規定ニ從ハサルニ因リテ取消サレ</u> <u>タルトキハ時効中斷ノ効力ヲ生セス</u></p>	<p>第一百五十四條 <u>差押、假差押、假處分</u>，因<u>權利</u> <u>者之請求</u>，或因不從<u>法律之規定而被取消</u>，不生 <u>時効中斷之効力</u>。</p>

表3 訓読み語の定着状況

パターン	移植された訓読み漢字表記語	定着	残存率
とり～	取扱、取扱所、取扱方、取扱人、取締、取締役、取調、取立、取立金、取次、取纏、取計、取引、取引所（14）	取締	7.1%
て～	手合圖、手当、手当額、手当金、手形、手数料、手漉紙、手代、手続、手帳、手荷物、手札形（12）	手続	8.3%
さし～	差入、差押、差繰、差支、差込、差立、差出、差出人、差止、差引、差戻（11）		0%
み～	見込額、見込違、見積、見取圖、見習、見張、見本（7）	見習	14.3%
はらい～	拂入、拂入額、拂入金、拂込、拂下、拂戻、拂戻金（7）		0%
たて～	立会、立会人、立寄、立寄港、立替、立替金（6）		0%
わり～	割合、割印、割引、割増、割増金、割戻（6）		0%
くみ～	組合、組入、組換、組替、組立、組物（6）	組合	16.7%
し～	仕入、仕拂、仕拂金、仕向地、仕様書（5）		0%
ひき～	引受、引換、引繼、引戻、引渡（5）	引渡	20%
79 個		5 個	6.3%

5. 結び

- (1) 百年前頃、その時代特有の**言語生態**が形成されていた。
- (2) 新造語が多様な環境因子に影響され、**多重フィルター**にかけられていた。
- (3) 中国語の語彙近代化において**和製漢語**が大きな役割を果たした。
- (4) 中国語に移植された大量の**漢字訓読み語**が熾烈な生存競争にさらされ、定着せずに淘汰された。

ご清聴、ありがとうございました！